



2012年10月 第10巻第10号

・今月の思想

かく語りき—聖人の言葉

「神を悟ると、神は内なるところから叡智と光とを授けてくださいます。その時が来れば自分で分かります。霊的悟りを完全に得ると、自分のハートにおられる神は、他人のハートにもいらっしやるのだと気付きます。虐げられた人々、迫害された人々、最下層の人々、見捨てられた人々のハートにも」

(シュリー・サーラダー・デーヴィー)

「あらゆる存在の中に真我を見ながらも、敵がいると感じる者は、火を冷たくしようと望んでいるに違いない」

(シュリー・シャンカラ)

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・今月の予定
- ・スワミー・メーダサーナンダ、ニューデリーにて「平和と調和の世界会議」に出席
- ・忘れられない物語

11月の予定

・生誕日・

- カーリープージャ 11月13日(火)
- スワミー・スボダーナンダ 11月25日(日)
- スワミー・ヴィジュニヤーナーナンダ 11月27日(火)

12月の予定

ハタ・ヨーガ・クラス

12月9日(日)、16日(日) 14:00~15:30
23, 30は年末なのでお休みです。

場所：新館アネックス

*体験レッスンもできます。

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

東京例会

12月1日(土) 14:00~16:30

場所：インド大使館

札幌講演会

12月2日(日)

お問い合わせ：逗子協会

京都講演会

12月4日（火）龍谷大学 15:00

場所：京都市下京区七条通大宮東入大
工町 125-1

テーマ：スワミー・ヴィヴェーカー

ナンダとタゴール、そして日本

対象：どなたでもご参加できます

お問い合わせ：

<http://rindas.ryukoku.ac.jp/access/>

逗子例会

12月16日（日） 10:30～16:30

場所：逗子本館

お問い合わせ：逗子協会

クリスマス・イヴ礼拝

12月24日（祝） 19:00～21:00

場所：逗子本館

平和と調和の世界会議

2012年9月11日～12日、ニューデリーのラーマクリシュナ・ミッションで「World Meet for Peace and Harmony（平和と調和の世界会議）」が開催されました。これは、スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年の祝賀行事の一環として行われたもので、宗教、科学、芸術、スポーツなどさまざまな

視点から平和と調和の礎を模索するという試みでした。会議はダライ・ラマ殿下のスピーチで始まり、キリスト教、スーフィズム、ユダヤ教、ヒンドゥー教、シーク教の優れた代表者らが 2 日間にわたり合計 8 つの特別セッションで講演を行いました。



12日（水）の午前のセッション 4 には、米国、スイス、南アフリカ、シンガポール、インドの各ラーマクリシュナ・ミッションを代表する僧らと共に日本ヴェーダーンタ協会のスワミー・メーダサーナンダが登壇し、「Contribution of the Ramakrishna Movement towards World Peace and Harmony（世界の平和と調和に対するヴェーダーンタ運動の貢献）」についてスピーチを行いました。議長はスワミー・ゴータマーナンダジでした。以下にマハーラージのスピーチを掲載します。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダと
日本

スワミー・メーダサーナンダ

私たちはスワミー・ヴィヴェーカー

ナンダの生誕 150 周年をお祝いしておりますが、実はスワームījは日本と特別な関係があります。

1893 年、シカゴに向かう途中スワームījは日本に立ち寄り、7 月 10 日には日本からベンガルのアラシंगाに送った手紙で、日本や日本人の特質について賞賛しています。また、数々の個人的な会話においても折に触れ日本と日本人をほめています。スワームījは、インド人が自らの国民性を保ちながら日本人のよいところを吸収すれば、彼らのためになると強く信じていました。

皆さんの中には、近代日本文化の著名な擁護者である岡倉天心がインドに渡ってスワームījに会い、魂を揺さぶるメッセージを伝えて欲しいと日本再訪を願って招聘したことをご存知の方もいらっしゃるでしょう。更に、時の最高権力者であった明治天皇までもがスワームījを招請していたのです。

スワームījは日本再訪に非常に乗り気であったものの、最終的には健康上の理由から招待を断りました。しかし、スワームījが肉体を離れた日である 1902 年 7 月 4 日、日本について重要な言葉を残しています。どのような意味合いでこの言葉を言ったのかは今でも分からないのですが、スワームījは「日本のために何かをしたい」と

言いました。少なくとも、最後の日までスワームījの心に日本が存在していたことは確かです。

日本ヴェーダーンタ協会は 1959 年に創設され、1984 年にラーマクリシュナ僧団の正式な支部となり、僧団に所属する僧の指導の下に機能する本格的な組織となりました。これは、スワームījが残した「日本のために何かをしたい」という最後の言葉が実現したのではないのでしょうか。



協会は長年にわたり、日本語の書籍・雑誌の発行、常住の僧による協会本部や日本各地での定期的な講話、2 か国語ウェブサイトの開設などさまざまな活動を行ってきました。また、NHK の 1 時間の番組で、日本の著名な大学教授である奈良毅博士がシュリー・ラーマクリシュナと諸宗教の調和についてお話しされました。これらにより多くの日本人がシュリー・ラーマクリシュナとヴィヴェーカーナンダの名を耳にしています。中には 2 人に関する本を読んで、その平和と調和のメッセージ、靈的叡智の教えに影響を受けたという

人もいます。

一般に、日本人は伝統行事などで宗教儀式を行ったり時折お寺に参拝したりするものの、宗教にはあまり関心を持っていません。日本人は宗教に関してリベラルと言えます。日本古来の宗教である神道と、インドから中国・韓国を經由して伝わってきた仏教の両方の儀式を行い、神社とお寺の両方を参拝するのです。例えば、結婚は神式で行い、葬式は仏式で行うという具合です。



日本人はこの100年間に、近代的物質文明の良い面も悪い面も両方味わってきました。それにより、自分たちに欠けている霊的知識と心の平安を得るために、霊的なことを求める人が増えてきており、その中には若者も含まれます。

しかし、この隙間を日本の今日の仏教で埋めることは、これまでの経緯等さまざまなことを考えると不可能ではないかと思えます。現代の日本人は仏教に対してマイナスのイメージを抱いており、仏教を「葬式仏教」と表現しています。

古代から伝わるインド哲学であるヴェーダーンタは、“Ekam sat vipraha, vahu” すなわち「真理は一つ、聖者らはそれをさまざまな名で呼ぶ」と言っています。シュリー・ラーマクリシュナはこれを、“Yato mat, tato path” すなわち「信仰の数だけ道がある」と表現しました。近代においてシュリー・ラーマクリシュナとスワミー・ヴィヴェーカーナンダが実践したこのヴェーダーンタは、現代的、科学的、普遍的かつ調和的宗教であると次第に認められつつあります。ヴェーダーンタは、現代世界のいかなる民族に対してと同様、日本人のニーズにもまさにぴったりの宗教です。

実際に、強さ、叡智、普遍主義を伝えるスワミー・ヴィヴェーカーナンダのメッセージにインスピレーションを受け、素晴らしいと感じていると素直に語る日本人に数多く会いました。スワミーの最近の公開生誕記念祝賀会である日本人女性がスピーチをされましたが、主婦であり会社の経営者であるその女性は、生活の公私両面でスワミーは大きなインスピレーションの源であるとおっしゃっていました。このような例は他にも多数あります。

2007年8月22日、日本の当時の首相である安倍晋三氏は、訪印中、インド国会の両院合同会議でスワミーに

ついて尊敬と感謝をこめて次のように発言しました。「インドが世界史に及ぼすことのできる貢献とはまず、その寛容の精神を用いることではないでしょうか。いま一度、1893年シカゴでヴィヴェーカーナンダが述べた意味深い言葉から、結びの部分を引きのお許しください。彼はこう言っています。“Help and not Fight (争いでなく助けを)”, “Assimilation and not Destruction (破壊でなく同化を)”, “Harmony and Peace and not Dissension (紛争ではなく調和と平和を)”」また、米国大統領バラク・オバマ氏も最近の訪印で同様のことを述べています。



しかし、思想を引用して語ることと、それを実践することには大きな違いがあります。これらの思想の実践には、様々な問題と向き合って解決していかなければなりません。例えば、宗教の調和を実践する際の最大の問題は、アイデンティティの維持と異なるものへの共感という2つの対立するコンセプトを、個人レベルでも組織レベルでもうまく調和させるにはどうすれば良いかという点でしょう。つまり、組織レ

ベルでは独自の宗派のアイデンティティを保ちながらも他の宗教宗派と共感し、同時に個人レベルでは自己のアイデンティティを保ちながらも他の集団に属する人に共感できる、ということです。

熟慮の末スワーミーが見出した答えは、宗教組織のレベルでの「宗派主義のない宗派」という思想でした。これはまったく新しいコンセプトで、世界の宗教史における新たなパラダイムです。これを誠実かつ適切に実践することで、宗派のアイデンティティを保ちプラスの面を活かしながら、自己本位、不寛容、対立を生み調和と平和の妨げとなる宗派主義を避けることができると、スワーミーは繰り返し述べています。

「宗派主義のない宗派」という考え方をすれば、ある宗派の信者が他の宗派や宗教を学んでその聖典や聖者の教えからインスピレーションを得ようという気持ちが生まれます。これは、自身の霊性を養う助けとなるだけでなく、他の宗教宗派の信者に対して友好的な気持ちを持つようになるでしょう。

この点に関して、少し私自身の体験をお話しさせてください。

日本や他国で、私のサフラン色の法衣に興味を持ってこう質問してくる人が

います。「あなたはハレー・クリシュナの人ですか？」これは、私が ISKCON の信徒であるかという意味です。私はこう答えます。「いいえ、私はハレー・クリシュナではなくラーマクリシュナです」すると、ラーマクリシュナとハレー・クリシュナが似たような響きなので混乱するようで、さらにこう聞かれます。「ハレー・クリシュナとラーマクリシュナはどう違うのですか」たいていの人は興味を持って一瞬だけで真剣ではありませんから、ここで長々と講話を行う余裕はありませんので、私は短くこう答えます。「ハレー・クリシュナは『only』で、ラーマクリシュナは『also』です」すると only と also とは何だろうと知りたがります。そこで私はこう説明するのです。「ハレー・クリシュナの団体はクリシュナ『だけ』が神の偉大な化身であると信じ、私たちラーマクリシュナの信者はクリシュナ『もまた』神の偉大な化身であり、ブッダやイエスと同じと考えます」

皆さん、『only』と『also』は言葉が違うというだけではありません。言葉に込められた意味の差は極めて大きいのです。『only』と『also』はそれぞれ、排他性と包括性という相反する概念を意味し、その概念を実行した結果、社会の調和、宗教の調和に対してどのような結果を生むかも表しているのです。排他性は宗派主義や狂信的な優越主義という形となって調和や平安を脅かし、

包括性は非宗派主義、多元主義という形となって調和と平和を生みます。この点については、生誕 150 周年を記念する祝賀行事が先だって終了した、偉大な詩人・哲学者のラビンドラナート・タゴールも強く唱えています。



一方、調和の実践は個人のレベルから始めねばなりません。ユネスコ (UNESCO) 憲章にも述べられている通り、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」のです。

同様に、不調和や原理主義、排他性も始まりは人の心にあります。心が自己中心的になり他者の幸福や健康を全く無視して自己保存だけを考えるようになった時に生まれるのです。ですから、まず個人が、自己中心的な考えをやめ慈悲 (Karuna) や友愛 (maitri)、奉仕 (sewa) の実践を通してできる限り他者について自分のことのように考えるよう努めることで、調和や包括性を育んでいかねばなりません。

そうすれば、インドの伝統である素晴らしい調和の概念、「Vasudaiva kutubbakam」(サンスクリット)と「Sare duniyā ekhi parivār hai」(ヒンディー語)、すなわち「世界は1つの家族である (the world is but one family)」を実現することができます。ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィーも同様のことを言っています。「わが子よ、一人として他人はいません。全世界があなたのものなのです。

(Keu tomar par nay. Jagat tomār apnār)」

では、調和と平和のために個人のレベルでそれぞれ努力することが、より大きなレベルとうまくかみ合うのでしょうか。もちろんです。それは、他者のことを自分のこととして考えることです。スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、心の平安を得る最良の方法は、自分を忘れることだと言いました。自分のことを忘れ、人のことを自分のことのように考え、人を思いやり、人に仕えることで、個人のレベルで調和と心の平安を得ることができ、ひいてはこれが社会の調和と平和につながるのです。

今日、世界は小さくなり、人と人との距離は狭まりました。ですから、ミクロレベルでもマクロレベルでも平安を得て成長に向かう心地よい空気の中になりたいと望むのであれば、「包括的に

ならざるを得ないのです。

スワミーは調和の理想を説いただけでなく、ギャーナ・ヨーガとバクティ・ヨーガの講義を通して調和と調和の論拠について哲学的基盤を提示しました。これを理解することで、調和と平和を推進しようという気持ちが強まることと思います。この哲学的基盤とは、次のように解釈できるでしょう。

『ウパニシャッド』の中に「Sarvam Khalvidam Brahma」すなわち「この宇宙のすべてはブラフマン、至高の实在である (Everything of this universe is indeed Brahman, the Supreme Reality)」という概念があります。また、『プウラーナ』の中には「Sarvam Vishnumayam jagat」すなわち「全宇宙は偉大な神、主ヴィシュヌが遍満している (The whole universe is pervaded by the Lord Vishnu, the Great God)」という概念があります。これら2つの概念の帰結は、ギャーナ(知識)の観点とバクティ(愛)の観点から導き出されます。2つは結局は同じであり、至高の实在を通じて意識(神)の次元で、すなわち私たちの中にすでにある神性の次元を通じて、私たちはこの世界の生きとし生けるものすべてと互いにつながっているのです。

つまり、私たちはすでに結びついているわけですから、新たに運動を始めて

調和と合一を打ち立てようというのではありません。互いにつながっているということに気付いていないだけなのです。ですから、平和と調和のための運動の主な目的とは、人々に、存在の結びつきがあるということに気付かせることなのです。このような意味があるからこそ、イエス・キリストの重要な教えである「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」をより良く理解し実践できるのです。スワームージは「宗派主義のない宗派」という思想を生み出して、自ら創立した組織であるラーマクリシュナ僧団で実践しましたが、この思想はまさに彼の遺産であり、諸宗教間に調和と理解をもたらすために他の宗教組織でも実践できるでしょう。

さて、私たち日本ヴェーダータ協会がこの宗教の調和というコンセプトを日本でどのように実践しているか、お話ししましょう。私たちの活動は僧団の他の支部で行っていることと概ね同じです。

1. シュリー・ラーマクリシュナ、シュリー・サーラダー・デーヴィー、スワームー・ヴィヴェーカーナンダの誕生日を祝う他、ブッダとイエス・キリストの誕生日も祝う。

2. 協会の例会などに仏教の僧侶やキリスト教の神父・牧師を招いて講話をしてもらう。

3. スワームー・ヴィヴェーカーナンダの公開生誕祝賀会の実行委員には、仏教徒とヒンドゥー教徒が複数名、キリスト教神父 1 名、神道の信奉者 1 名がいます。

4. この祝賀会では、仏教の僧侶やキリスト教の神父・牧師を招いてスピーチをしてもらうことがよくあります。イスラム教の聖職者にもスピーチをいただきたいのですが、たまたま日本ではそのような方をなかなか見つけることができないため今のところ実現に至っていません。

5. 日曜午前に、特別な聖句朗唱の機会を設け、ブッダ、イエス・キリスト、ムハンマドの言葉を輪読しています。また、聖句朗唱の後には「Jay Jesus Christ ki jay, Jay Hazrat Muhammad ki jay! (イエス・キリストに勝利あれ、ムハンマドに勝利あれ)」と唱えるのが習わしです。

6. 日本では元旦に大勢の人が有名なお寺や神社にお参りします。協会では、礼拝室で祈りを捧げた後、信者の人たちと一緒に仏教のお寺、キリスト教の教会、神道の神社にお参りに行きます。イスラム教のモスクはないのですが、もしあったらもちろん行っているでしょう。

このように、私たちがやっていることは、様々な方法で宗教の調和を実践するだけでなく、異なる宗教の指導者らが集まる機会を設けたり、協会の信者

の前で他の宗教の指導者が自身の宗教について話す機会を作ったりすることです。残念ながらごくわずかの例外を除いて、私たちのこのような取り組みに対して、同じような形でお返しいただいたことはほとんどありません。おそらくインドでもそうではないかと思えます。このラーマクリシュナ・ミッションの取り組みを他の宗教団体が取り入れ、いつか私たちを呼んでいただける日が来るのを楽しみにしております。きっと宗教の調和を築くのに大いに役立つことでしょう。そうでなければ、単にスピーチをして宗教の調和について決議を採択したからといってあまり効果は期待できないでしょう。

これまでに述べたように、私たちは日本で宗教の調和を実践していますが、さらに、宗教間のフォーラムを創設したいと考えています。このようなフォーラムは、諸宗教の指導者らが定期的に集まり研究や検討を通じて互いの宗教をよく知るための基盤となると信じております。このようなフォーラムでは、儀式主義のような相違点ではなく、共通点に重きを置くべきでしょう。また、参加する諸宗教の教徒に対し善意のメッセージを伝えると共に、継続して対話を行うことは、特別な機会にだけ集まるよりもずっと効果的です。アメリカでは、宗教指導者が他の宗教団体を互いに訪問し合うことはやはりまれですが、このようなフォーラムはよ

く行われています。

デリーのラーマクリシュナ・ミッションの現書記長であられるスワミー・シャントマーナンダジは、前書記長のスワミー・ゴクラナンダジ同様、活動的で様々な大きな目的を持っていらっしゃるでしょう。ですから、スワミーの生誕 150 周年記念祝賀会の一環としてそのような宗教間フォーラムを始められてはいかがでしょう。これは実に先駆的偉業となるでしょうし、スワミーへの贈り物にぴったりです。では、最後にもう一つ申し上げます。

これまで、インド以外の地で、僧団はヴェーダーンタやシュリー・ラーマクリシュナ、ヴィヴェーカーナンダの普遍のメッセージを広めるべく集中した取り組みを続け、欧米にそのメッセージが伝えられました。今やこのメッセージをアジア各地、特にタイ、ラオス、カンボジア、インドネシア、台湾などの国々に広める取り組みを行うべき時が来たのです。ご存知の通り、これらの国々はインドの文化的宗教的伝統と歴史的なつながりを持っています。

アジア各国にこのようなメッセージを広めることは、それぞれの国民に大きな恩恵となるだけでなく、世界の平和推進活動を統合し強化するのに役立つでしょう。

私は、近隣諸国にこのようなメッセージを広める取り組みを行うには日本ヴェーダーンタ協会が最も適していると考えており、ここ数年、韓国とフィリピンを訪問し、興味を持つ人たちに講話を行っています。

喜ばしいことに、2008年、フィリピンに私設の Vedanta Society が発足し、現在、ラーマクリシュナ僧団の支部となるのを待っている状況です。さらに先月、韓国でも Vedanta Society がささやかながら誕生しました。

日本ヴェーダーンタ協会およびフィリピンと韓国の協会ではすでにスワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年記念祝賀会を計画しており、現地のインド大使館と協力して、調和と平和について当国の人々、特に若者に対して、靈性を高めるスワミーのメッセージを広める取り組みを行う予定です。これらのプログラムが成功するよう、皆様どうぞお祈りくださいますよう心よりお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。オーム、シャンティ、シャンティ、シャンティ、ハリオーム。

忘れられない物語

川を渡って

ある農夫の娘は、乳搾りをしていろいろな村のお客さんに新鮮なミルクを届けるのが仕事でした。お客さんのひとりに祭司がいました。娘が祭司の家に行くには、かなり幅のある川を渡らなければなりません。その川を渡るのに、人々は渡し賃を少し払っていかだに乗っていました。

祭司は毎日神に新鮮なミルクを捧げて礼拝を行っていましたが、ある日、娘の到着がとても遅れたので娘を叱りました。かわいそうに、娘はこう言いました。「私にはどうすることもできません。家をととても早く出ているのですが、船頭さんが来るのを長いこと待たないといけないのです」

すると祭司は、本気のふりをして言いました。「何！人々は神の名を繰り返し唱えながら海さえも渡るのに、お前はこの程度の川も渡れないのだと？」娘は祭司の言葉を本気にしました。そのときから、娘は祭司のミルクを毎朝時間通りに持ってくるようになりました。祭司はこれに好奇心をそそられ、娘に、どうして全然遅れないようになったのか尋ねました。

「私は神の名を繰り返し唱えながら川を渡っているんです」と娘は答えました。「祭司様がおっしゃった通り、渡し船を待たないで」祭司は娘を信じる

ことができず、尋ねました。「どうやって川を歩いて渡ったのか、私に見せてくれないか」そこで、2人は一緒に川まで行き、娘は歩いて川を渡り始めました。娘が振り返ると、祭司が自分に続いて川を渡り始め、水中でもがいているのが見えました。

「祭司様！」と娘は叫びました。「祭司様は、神の名を唱えながらも服が濡れないよう持ち上げているのですね。それは神を信じていないということですよ」

(シュリー・ラーマクリシュナ)

今月の思想

「実は、学ばずして教えることはできない。学びには教えが、教えには学びが必要なのだ」

(パウロ・フレイレ)

発行：日本ヴェーダータ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp